

所属学科：地球圏システム科学科

氏名：松原友輝

派遣期間：2018/3/19~2018/3/27

派遣先：タイ マヒドン大学 カンチャナブリキャンパス

はじめに

今回のプロジェクトに参加を希望した理由は、日本とは違うタイの地質について現地で学び、専門分野の新しい知識を取得するためである。また、日本では体験できないような英語でのコミュニケーションや現地の文化に触れ、新しい環境で自分を試してみたかったという思いもあった。現地での生活のなかで様々なサポートをして下さった先生方や生徒の皆さんに、この場をお借りして感謝の意を表す。

スケジュール

- | | |
|------|------------------------------|
| 3/18 | 移動（福岡空港→上海浦東国際空港→スワンナプーム空港） |
| 3/19 | キャンパス内及びキャンパス周辺案内、ゼミに参加 |
| 3/20 | ヘルファイア・パス見学、農園見学 |
| 3/21 | プラサート・ムアン・シン歴史公園見学、鍾乳洞見学 |
| 3/22 | 化石巡検、村訪問、歓迎会 |
| 3/23 | 副学長と懇談、脇田先生のプレゼン、鍾乳洞見学 |
| 3/24 | エラワンの滝&シーナカリン・ダム見学、戦場にかける橋見学 |
| 3/25 | タイガー・テンプル訪問、プレゼン作成 |
| 3/26 | プレゼン発表 |
| 3/27 | 移動（スワンナプーム空港→上海浦東国際空港→福岡空港） |

マヒドン大学 カンチャナブリキャンパス

カンチャナブリキャンパスは、スワンナプーム空港から車で北西におよそ5時間のところに位置する。非常に自然が豊かで、大学敷地内には犬や猿が多く生息していた。大学には理系の学科があったが、山口大学と違って女性の生徒が多かった。基本的に移動はモーターバイク

の
乗
ら



後
ろ
に
せ
て
も
つ
た。

図 1：（左）大学内、（右）大学周

現地での生活

タイの気温は非常に高く、最高気温は 38℃になる日もあった。水道水を飲むことはできないので、毎朝、店でその日の水分を購入した。食事は学食か、近くの店で食べた。基本的にどの料理も美味しかったが、私たちにとっては辛い料理がメニューの半分くらいを占めていた。特に、トムヤムクンは辛さと酸っぱさが入り混じっており、衝撃的な味だった。宿舎は、大学のゲストハウスを貸していただいた。二人で一部屋のきれいなゲストハウスだった。おかげさまで、夜はゆっくりと休むことができた。

巡検と観光名所見学

巡検では、石灰岩中に産する貝化石を観察した。日本に産する貝化石とは違って、真っ直ぐに伸びていた。鍾乳洞は日本に存在するものと同じような構造だったが、鍾乳洞の中に水が全くなかった。また、たくさんの観光名所に連れて行って下さった。エラワンの滝や戦場にかける橋などは日本でも有名な観光名所である。観光名所では見学するだけでなく、生徒がその周辺の地質や歴史などを丁寧に教えてくださった。特に、泰緬鉄道についての歴史は、日本人としてはもっと詳しく知っておくべきであると感じた。



図 2 : (左) 貝化石 (真ん中) 戦場にかける橋 (右) ヘルファイア・パス

さいごに

今回の留学で一番苦労したのが、英語でのコミュニケーションである。一度では聞き取れず、何度も聞き返すことが多々あった。それでも生徒の皆さんはとて親切で話しやすく、積極的に話しかけるように心がけた。その結果、初日と最終日を比べると、コミュニケーションがとれるようになった。このような国際交流を経験することができて、応募して本当に良かったと思う。



図 3 (左) 集合写真 (右) サッカー部の練習に参加